オペレッタ
—「ねずみのよめいり」の創作から展開—

飯田和也
安藤昌子

1　はじめに

今回の研究は、短期大学の学生が高校生活までの中でオペレッタの体験をしたことや理解していることがどれぐらいあるかを意識調査することによって在学中の技術や知識に対してどう指導したらいいかということを探る。また、一年生と二年生のオペレッタに対しての意識の違いをとらえることによって指導をするときの留意することを明確にしたい。

オペレッタは日常保育における生活発表会、年間の各種行事（入園祝い、たなばたの会、お誕生日会、クリスマス会、卒園祝い）等多くの機会に見られる。ここでは「ねずみのよめいり」の作品作りからその展開を通して、幼児への指導方法を探っていきたい。

2　方法

（1）オペレッタ「ねずみのよめいり」を使用して、オペレッタの創作から表現発表会までを具体的に理解、探求する。

（2）保育科学生を通して

1年生ではオペレッタについての意識調査としてアンケートを行う。2年生では1年生と同じく、先ず意識調査を行い、オペレッタについての理解を深める目的で「ねずみのよめいり」のシナリオを学生に配った。そして、予めシナリオに沿って作っておいた紙芝居を用いてあらすじと曲を歌いながら終りまで通した。

次に1クラスを4グループに分け、4つのまとまりにしたシナリオをそれぞれ役割を決めて物語を演じてみる。後に、前もって配布しておいたプリント「メモ及び反省」を通して、学生のオペレッタについての意識の変化を調査する。

3　結果及び考察

（1）オペレッタ（創作〜〜発表まで）

（a）シナリオ作り

日本の昔話から1曲作りたいと思っていたので、題は「ねずみのよめいり」とした。参考となる本を2冊用意した。一方は昔ながらの鼠の両親が太陽、雲、風、壁、そして鼠に会いに行くという物語で、他方は猫が登場したり、太陽、雲、風、壁、そして鼠に会いに行く者が鼠の村長さんであったりして、多少変化している物語になっている。

今回はこれらの2つの物語を脚色して、太陽、雲、風、壁に会いに行く者は鼠の家族（お父さん、お母さん、ちゅうこさん）とし、お友達、猫達を加え、シナリオ作りとした。

＊以下にシナリオ作りの為に配慮したことを揚げる。

・配役については幼児が興味を持ってやってみたいと思う登場人物になることが出来るよう人数の増減が可能な形にする。
・物語の初めと終りは全員が出演出来るように、初めはちゅうこさんのお誕生日、終りは締めくくりよくするために結婚式とする。
・登場、退場を増やして、登場人物の入れ替えを多くする。
・鼠の物語であるので、鼠の特徴を生かすため、「チュー、チュー」という言葉を挿入して幼児が鼠の世界を演ずることを楽しむことが出来るようにする。
・猫達は鼠の物語のアクセントとして出演させる。唯一悪役として登場するが、曲に興味を持ってやってみたいと思う幼児の為に人数の増減が出来るようにしたい。

オペレッタ

・太陽、雲、風、壁は出演したい幼児の人数に
　寄って増減出来るように振り付けを考える。
＊これらの事を考慮して出来上がったオペレッタ
　のシナリオと曲を次に示す。

＊あらすじ

鼠の家族－－－－－お誕生日－－－－猫出現－－－－－－－太陽－－－－雲－－－－－風－－－－－
（お父さん　　）　（お友達）　（ごろにゃーご）　（お日様）　（雲さん）　（風さん）
（お母さん　　）　（ごろごろにゃーご）
（ちゅうこさん）

壁－－－－鼠－－－－－－－－－結婚式
（壁さん）（ちゅうすけくん）（全員で）

ねずみのよめいり

作／曲　安藤昌子

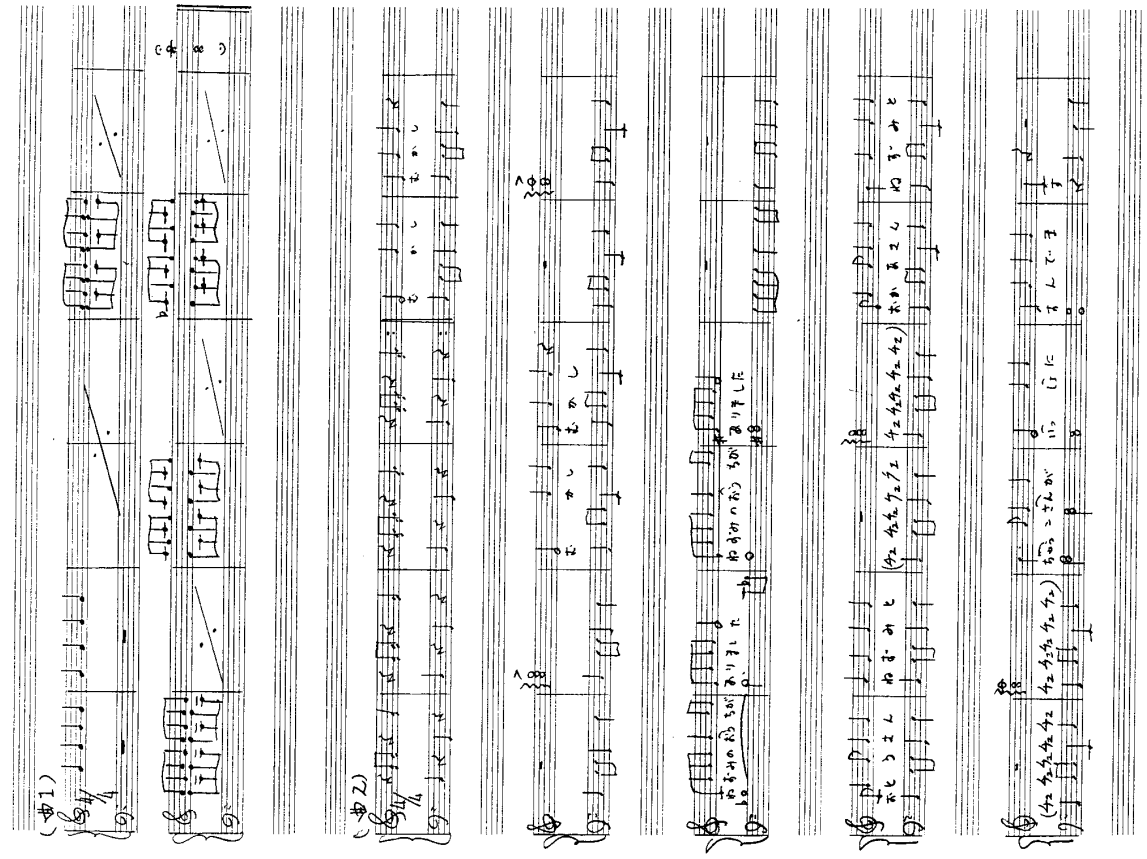
登場するもの：おとうさんねずみ
おかあさんねずみ
ちゅうこさん（娘）
お日様
雲さん
風さん
壁さん
ねずみのお友達
ちゅうすけくん

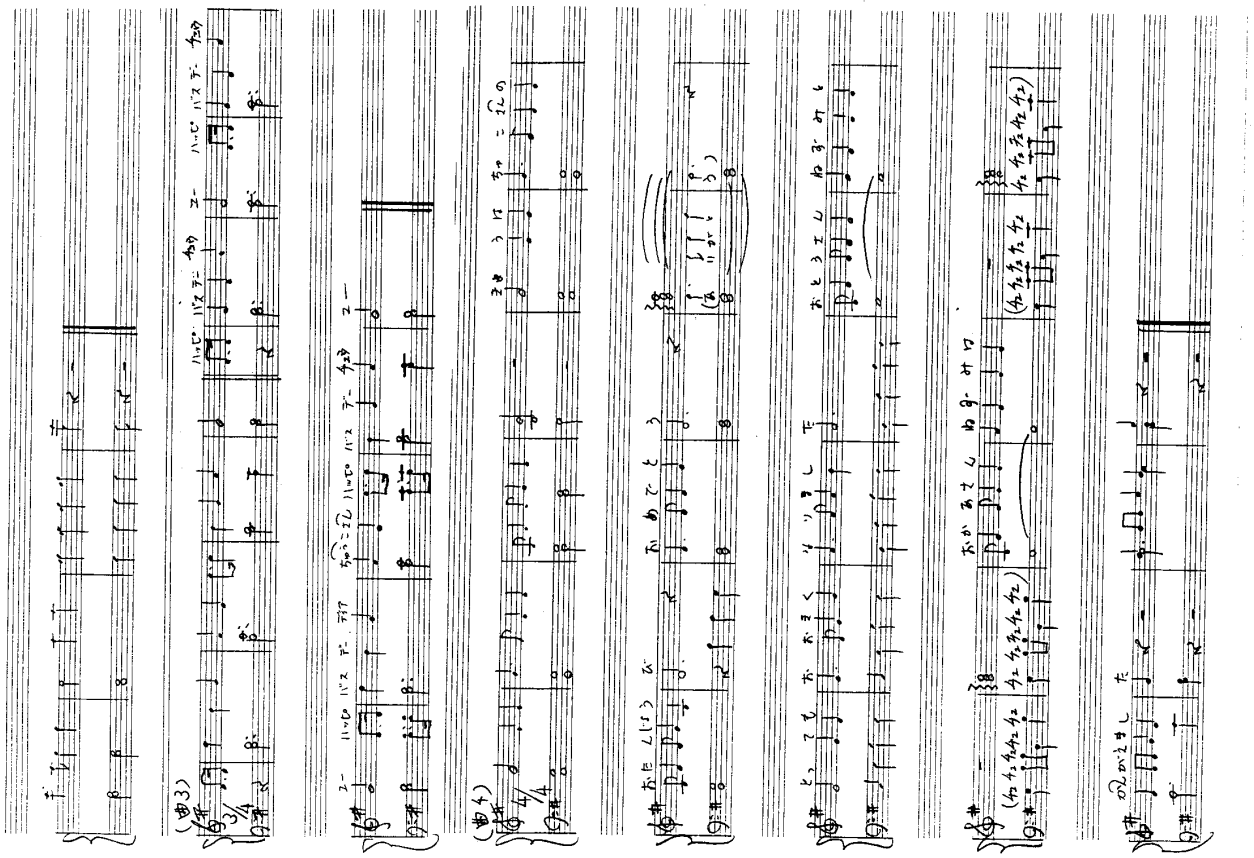
場所：ねずみの家
曲1（序奏）
　｛ねずみのお友達が登場｝
曲2（合唱）
　むかしむかし　むかしむかし
　ねずみのおうちが　ありました
　ねずみのおうちが　ありました
　おとうさんねずみと（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
　おかあさんねずみと（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
　ちゅうこさんが　いっしょに　すんでます
　｛ねずみの家族が登場。おかあさんがケーキを持っている｝
　｛お友達はそれぞれにプレゼントを持っている。｝
ねずみのお友達1：きょうはちゅうこさんのお誕生日だね。
　　2：ちゅうこさん、お誕生日おめでとう。
　ちゅうこさん：ありがとう
　　皆で：お誕生日おめでとう。
　ちゅうこさん：ありがとう
　　3：みんなでお祝いの歌を歌いましょう。
曲3（合唱）｛ちゅうこさんを囲んで｝
　ハッピバースディ　ちゅうユー
　ハッピバースディ　ちゅうユー
　ハッピバースディ　ディアちゅうこさん
　ハッピバースディ　ちゅうユー
ねずみのお友達（それぞれに）：ちゅうこさん、お誕生日おめでとう。
　｛それぞれがちゅうこさんにプレゼントを渡す。｝
ちゅうこさん：わあ、素敵。ありがとう。ありがとう。ありがとう。

おとうさんねずみ：おかあさん、分かったぞ。世界で一番強くて立派なのはお日様だ。
お日様にお婿さんになってくれるよう頼んでみよう。
おかあさんねずみ：それでは早速お日様に会いに行きましょう。
｛２人退場｝
曲６　｛お日様登場する。｝
｛次いでおとうさんとおかあさん、ちゅうこさん登場する。｝
曲７（おとうさん、おかあさんねずみ、ちゅうこさん）
おひさま　おひさま　こんにちは
おしえてください
世界で　いちばん　つよくて　りっぱなのは　あなたですか
どうか　むすめを　もらってください
おねがいします。
曲８（お日様）
そうだ　そうだ　世界で　いちばん　つよくて
りっぱなのは　このわしだ
語り：その時、むくむくと雲があらわれて、お日様を隠してしまいました。
おとうさんねずみ：おやおや、お日様より雲さんのほうが強いなあ。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。お日様より雲さんのほうが強いですねえ。
おとうさんねずみ：おかあさん、分かったぞ。世界で一番強くて立派なのは雲さんだ。
雲さんにお婿さんになってくれるよう頼んでみよう。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。世界で一番強くて立派なのは雲さんですねえ。雲さんにお婿さんになってくれるよう頼んでみましょう。
ちゅうこさん：それではさっそく雲さんに会いに行きましょう。
｛３人退場｝
曲９　｛雲さん登場する。｝
｛次いでおとうさん、おかあさん、ちゅうこさん登場する。｝
曲１０（おとうさん、おかあさん、ちゅうこさん）
くもさん　くもさん　こんにちは
おしえてください
世界で　いちばん　つよくて　りっぱなのは　あなたですか
どうか　むすめを　もらってください
おねがいします
曲８（雲さん）
そうだ　そうだ　世界で　いちばん　つよくて
りっぱなのは　このわしだ
曲９｛語りが入る｝
語り：その時です。ピュー、ピューと風がふきはじめました。雲がどんどん飛ばされていきます。おとうさん、おかあさん、ちゅうこさんも、今にも飛ばされそうです。風はピュー、ピューと吹いて行ってしまいます。
｛３人は風に飛ばされながら退場｝
｛プレゼントを受け取る｝
｛皆でちゅうこさんを囲む｝
曲４（合唱）
きょうは　ちゅうこさんの　お誕生日（チュウ）
おめでとう（チュウ）　（ありがとう）（チュウ）
とっても　おおきくなりました
おとうさんねずみと（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
おかあさんねずみは（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
かんがえました（チュウ）
おとうさんねずみ：おかあさん。そろそろ　うちのちゅうこにも　強くて立派なお婿さんを見つけたいものだ。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。そろそろうちのちゅうこにも強くて立派なお婿さんを見つけたいものですねえ。
曲５｛（猫のテーマ）を入れながら、語り｝
語り：その時です。「ニャーオー」と恐ろしい鳴き声がしました。黒猫達がやってきたのです。
｛ねずみたちは舞台ふちにかたまる｝
ごろにゃーご：おれ様はごろにゃーごだ。ごろにゃーご、おなかがへったなあ。
ごろごろにゃーご：おれ様はごろごろにゃーごだ。ごろごろにゃーご、おいらもおなかがへったよう。
猫達：どこかにねずみはいないかにゃー。
｛辺りを見回す｝
曲５（黒ねこ達）
にゃーお　にゃーお　おれ様はねこだ
にゃーお　にゃーお　おれ様はねこだ
ねずみは　どこだ　ねずみは　どこだ
たべちゃうぞー
ねずみは　どこだ　ねずみは　どこだ
たべちゃうぞー
語り：ねずみ達は大慌てで逃げ出しました。
ねずみ達：ちゅう　ちゅう　ちゅう　ちゅう……
猫達：にゃーおー　にゃーおー　にゃーおー……
｛ねずみと猫は追いつ追われつ全員が退場｝
｛おとうさんとおかあさんねずみが登場｝
おとうさんねずみ：やれやれ、うちのちゅうこにはねこに負けないような強くて立派なお婿さんを見つけたいものだ。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。うちのちゅうこにはねこに負けないような強くて立派なお婿さんをみつけたいものですねえ。
｛２人は腕組みをしてかんがえる。｝
おとうさんとおかあさん：うーん、うーん、うーん、……

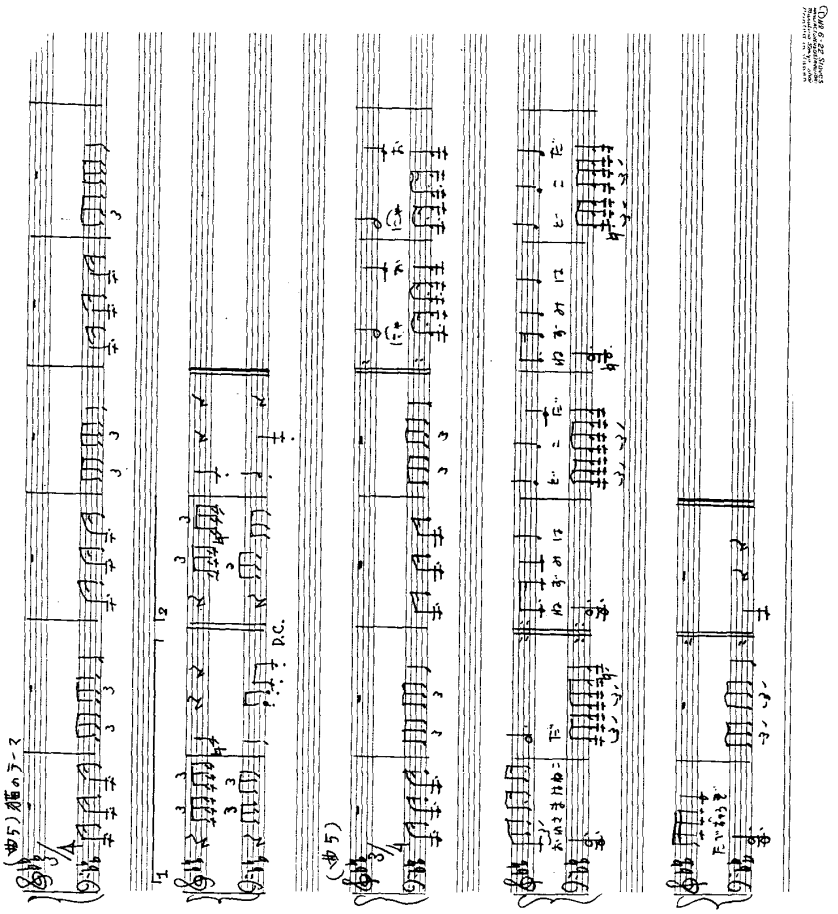
おとうさんねずみ：そうか、壁さんよりもねずみのほうが強いぞ。
おかあさん、分かったぞ。世界で一番強くて立派なのは私たちねずみだぞ。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。世界で一番強くて立派なのは私たちねずみでしたねえ。
おとうさんねずみ：うちのちゅうこはちゅうすけくんにもらって頂くことにしましょう。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。ちゅうすけくんにお婿さんになってもらいましょう。
さあ、今からちゅうちゅうねずみの結婚式を始めましょう。
〔全員登場〕
曲１２（合唱）
ちゅうすけくん　おめでとう　ちゅうこさん　おめでとう
きょうは　ねずみの　けっこんしき
ちゅうすけくん　おめでとう　　ちゅうこさん　おめでとう
きょうは　ねずみの　けっこんしき
おとうさんねずみと（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
おかあさんねずみは（チュ　チュチュチュチュ　チュ　チュチュチュチュ）
うれしそう
さあ　みんなで　おいわいだ
さあ　みんなで　おいわいだ
おめでとう　おめでとう
みんなでおいわい　いたしましょう
おめでとう　おめでとう

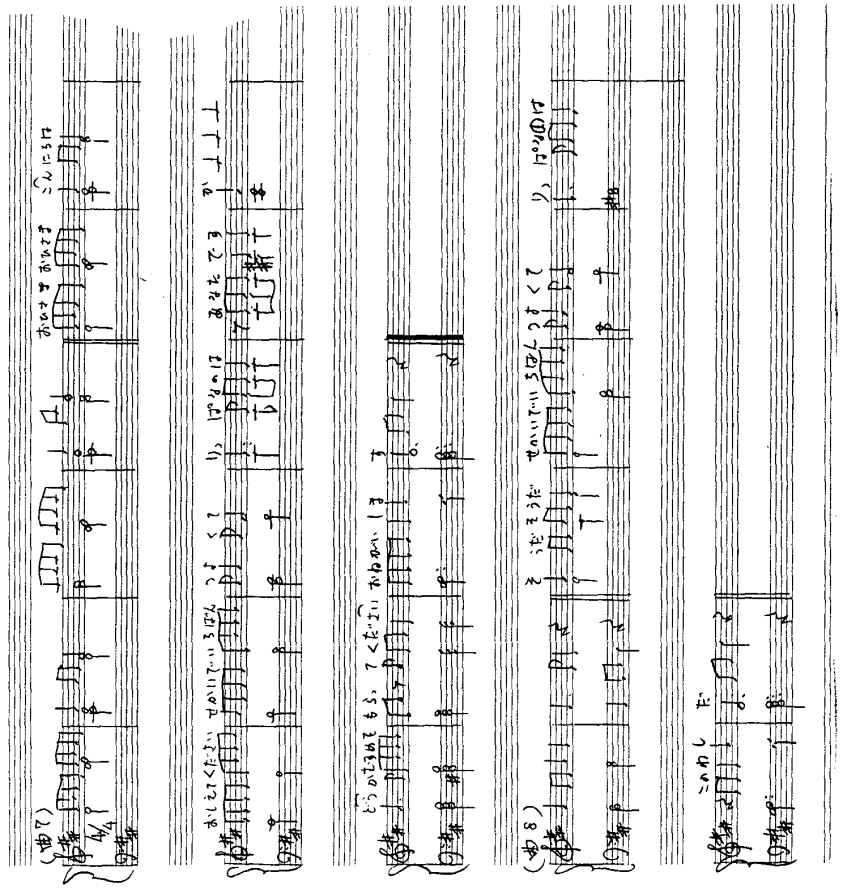
〔新たに３人登場する〕
おとうさんねずみ：風さーん、待ってくれー。〔呼び掛けるように〕
おかあさんねずみ、ちゅうこさん：風さーん、待ってくださーい。
曲１１（おとうさん、おかあさん、ちゅうこさん）
かぜさん　かぜさん　こんにちは
おしえてください
世界で　いちばん　つよくて　りっぱなのは　あなたですか
どうか　むすめを　もらってください
おねがいします
曲８（風さん）
そうだ　そうだ　世界で　いちばん　つよくて
りっぱなのは　このわしだ
風さん：わしは今用があって向こうへ飛んでいかなくてはならないのだ。
また今度会うことにしよう。ピュー、ピュー
〔３人は風に飛ばされながら退場する。新たに３人登場する〕
語り：おとうさん、おかあさん、ちゅうこさんは風に吹き飛ばされて、壁にぶつかりました。
おとうさん、おかあさん、ちゅうこさん：あいたたたたた……。
おとうさんねずみ：風さんがいくら吹いても壁さんはびくともしないぞ。
おかあさん、分かったぞ。世界で一番強くて立派なのは壁さんだ。
壁さんにお婿さんになってくれるよう頼んでみよう。
おかあさんねずみ：おとうさん、そうですねえ。世界で一番強くて立派なのは壁さんですねえ。壁さんにお婿さんになってくれるよう頼んでみましょう。
ちゅうこさん：それでは早速壁さんにお願いしましょう。
曲１１（風さんと同じメロディで）（おとうさん、おかあさん、ちゅうこさん）
かべさん　かべさん　こんにちは
おしえてください
世界で　いちばん　つよくて　りっぱなのは　あなたですか
どうか　むすめを　もらってください
おねがいします
曲８（壁さん）
そうだ　そうだ　世界で　いちばん　つよくて
りっぱなのは　このわしだ
ちゅうすけ：ちゅうちゅう、カリカリカリ、ちゅうちゅう、カリカリカリ……
壁：私をかじるものは誰だ？
ちゅうすけ：ちゅうちゅう、カリカリカリ、ぼくはねずみのちゅうすけだよ。
ちゅうちゅう、カリカリカリ、カリカリカリ。
壁：助けてくれー、穴が開いてしまうよー、助けてくれー。
〔壁とちゅうすけくんは退場。続いて３人退場。新たにおとうさんとおかあさんが登場〕

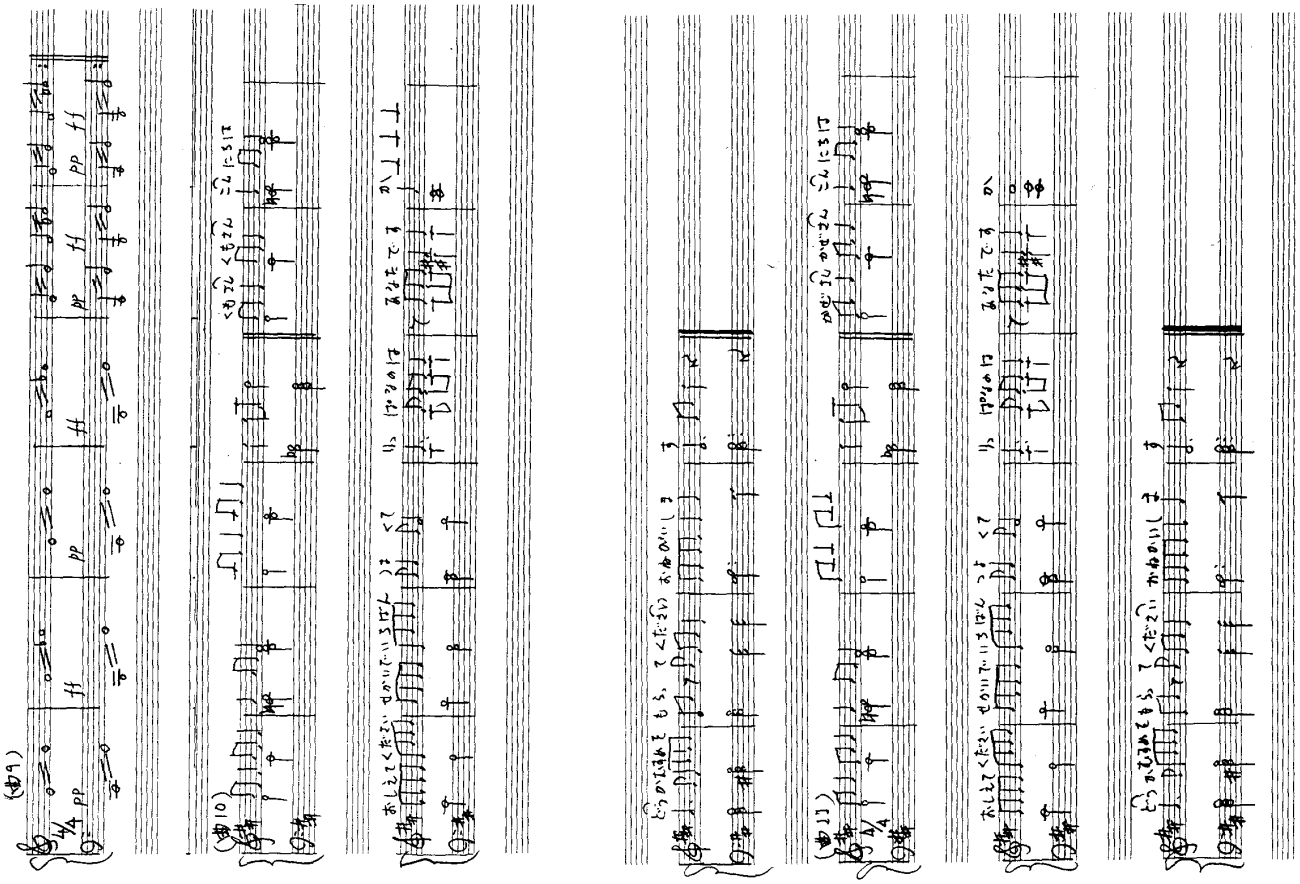


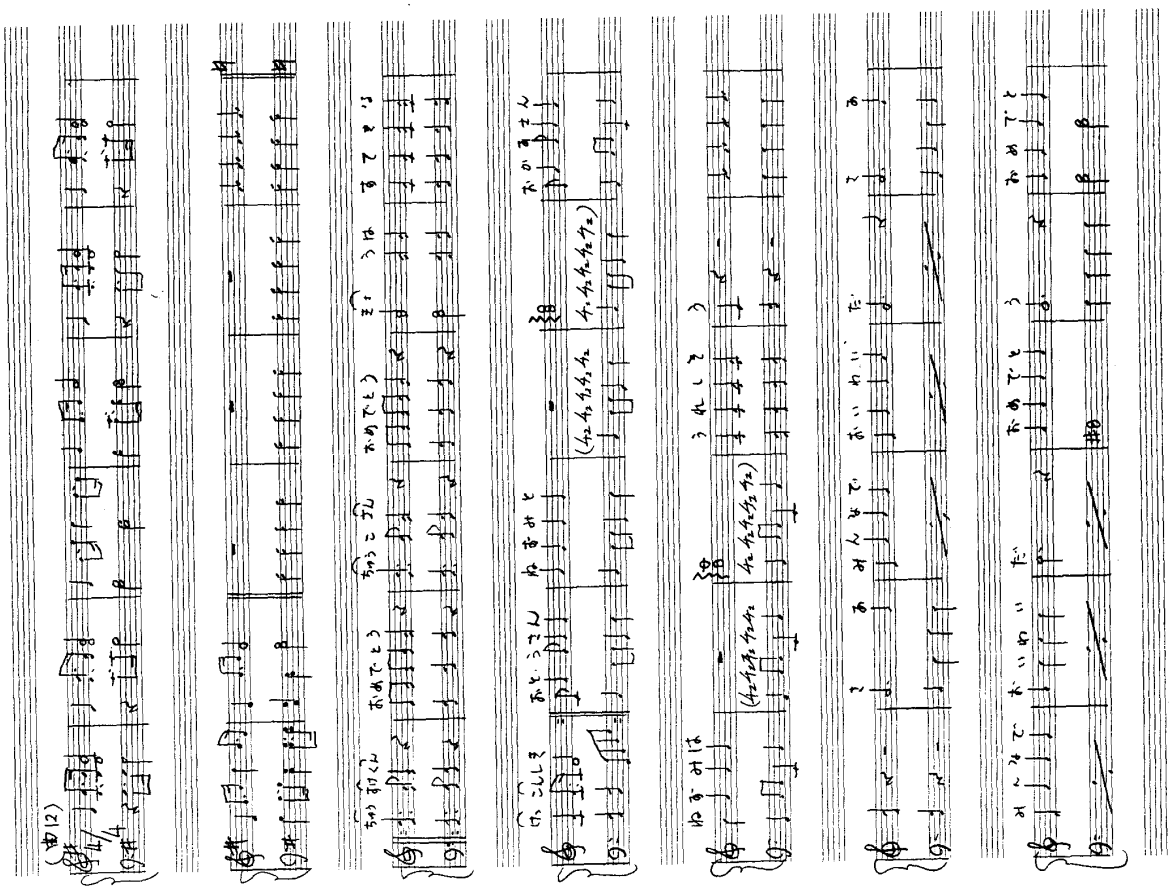


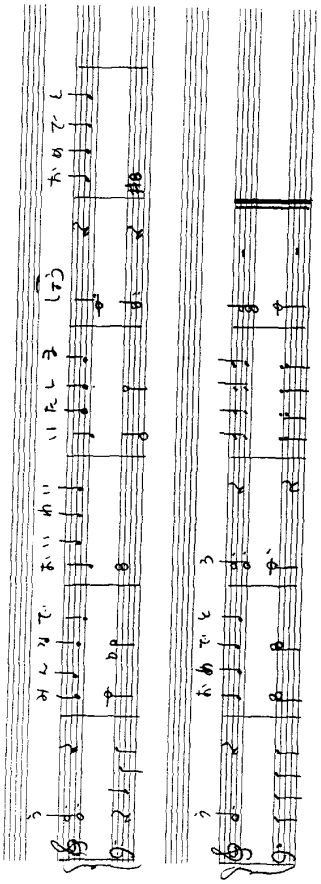
オペレッタ











（b）導入の方法

＊ オペレッタを表現発表会として指導する場合の導入の方法として考えられるものを揚げてみたい。

・ 絵本を読み聞かせる。

出来れば数回繰り返して読み聞かせ、物語の登場人物やあらすじを明確にさせ、幼児の物語に対するイメージを豊かにする。

・ 物語を話して聞かせる。

教師が直接幼児に物語を話して聞かせることによって幼児の興味を登場人物や物語のあらすじに向かせ、幼児の物語に対するイメージを豊かにする。

・ 紙芝居を作って見せる。

教師が作っても良いが、幼児にそれぞれ分担させて作っても良い。紙芝居も繰り返して見せることによって、幼児は絵を見ただけで物語を想像することが出来るようになる。

・ 絵を書かせる。

物語の印象に残った場面を絵に書かせ、その絵について皆で意見を言い合う。

・ 曲を歌う

教師は自由時間にピアノ等で曲を演奏して、幼児に興味を持たせる。この時幼児を曲に合わせて自由に踊らせたりして、それを皆で演じてみるのも良い。この様にして曲の振り付けを決定していく方法もある。

・ 台詞

教師と幼児で登場人物の台詞を言い合ったり歌い合ったりする。この時、幼児の自ら参加する気持ちを大切にしたい。台詞に慣れて来たら、身振り手振りを使って振り付けを決定しても良い。又その時は幼児の興味を持たせるため大袈裟で面白いものを作りたい。

・ 登場人物の決定

登場人物の特徴、物語のあらすじを理解した幼児はそれぞれのなりたいと思う役柄になるのが理想的ではあるが、教師や皆で相談して、幼児それぞれの不満のないような配役にしたい。

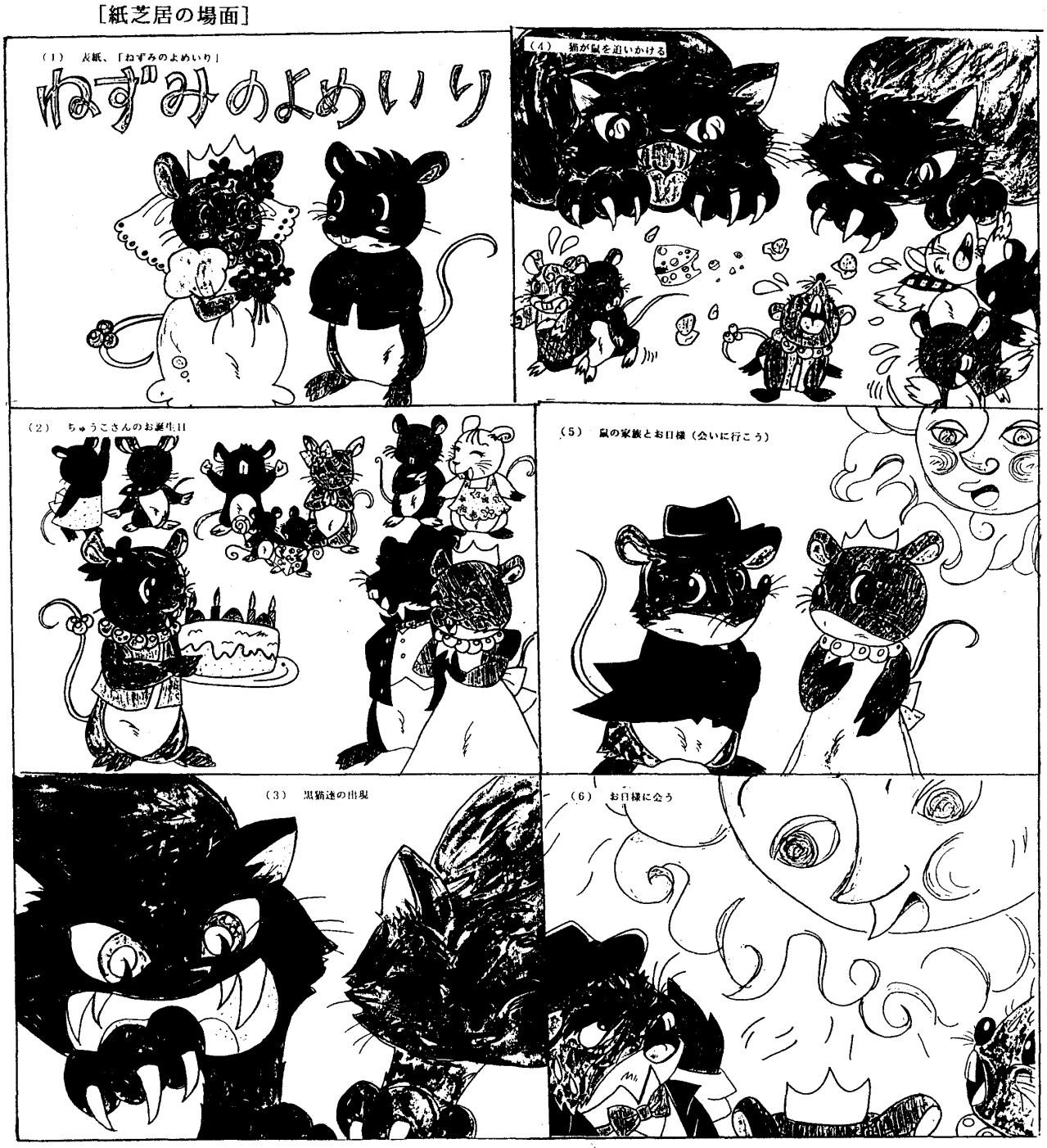
＊紙芝居の作成

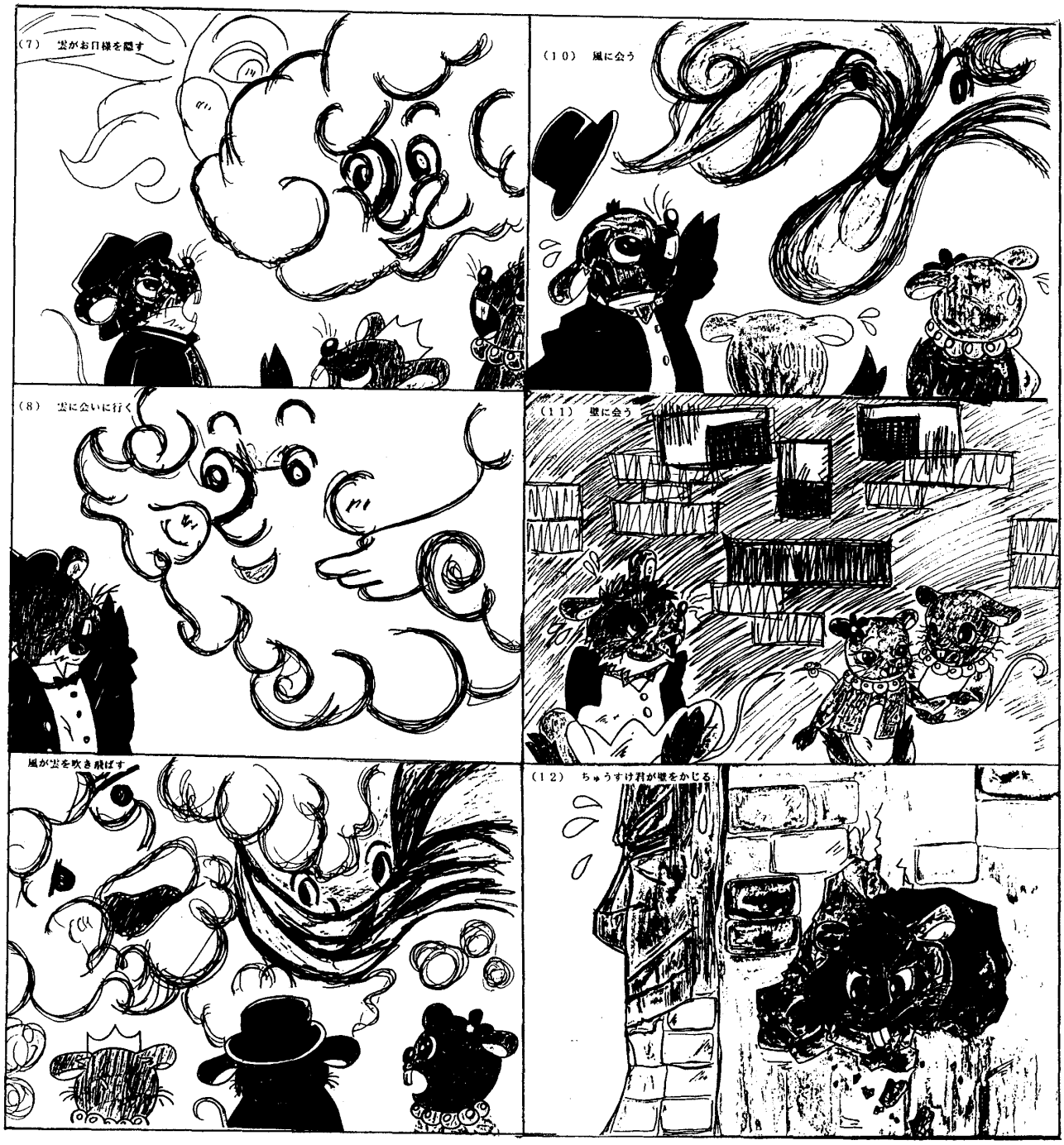
今回は導入の一方法としてオペレッタ「ねずみのよめいり」と同じあらすじで紙芝居を作ってみた。それぞれの場面を後に示す。

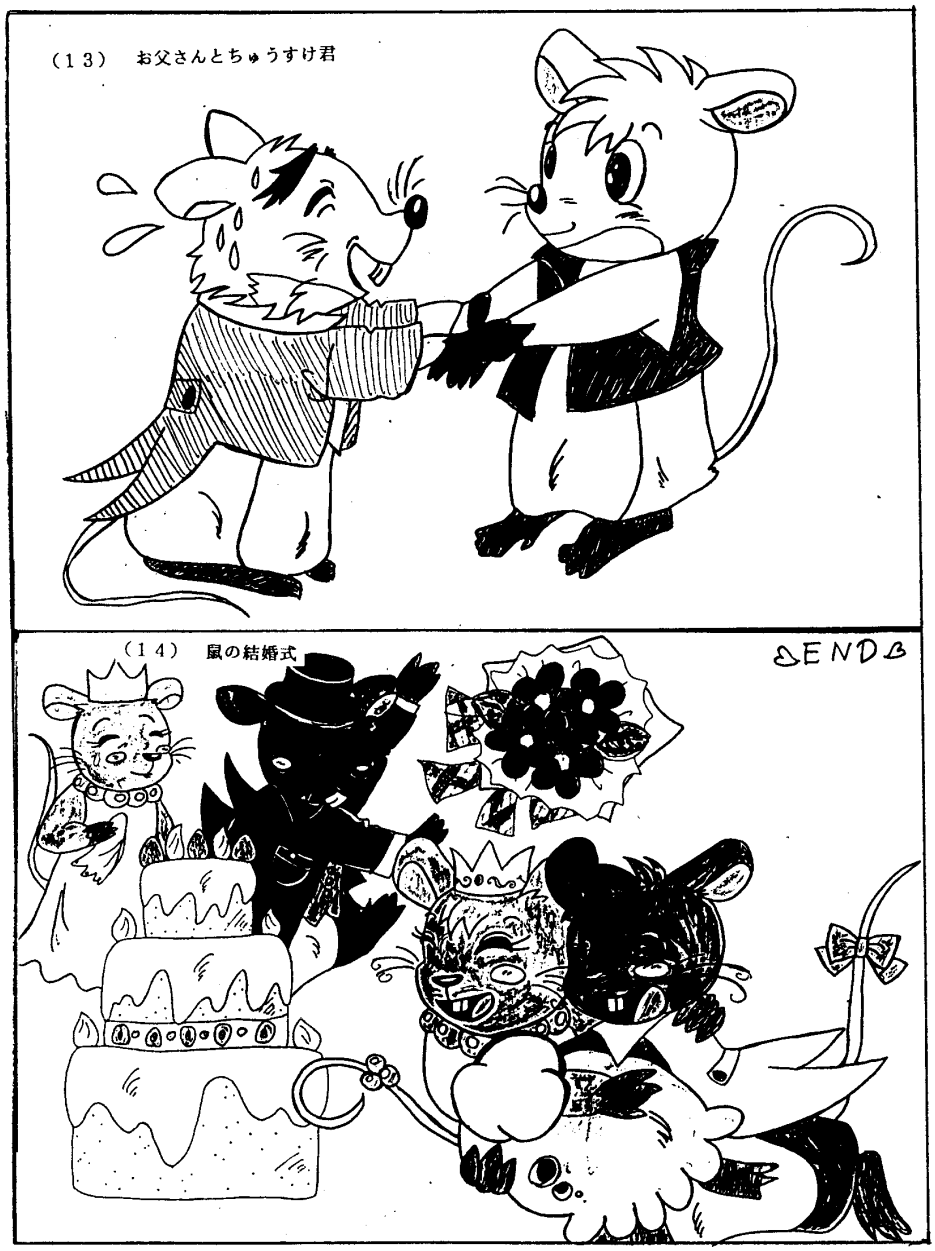
（c）表現発表会に向けて（衣装と舞台の作り方）

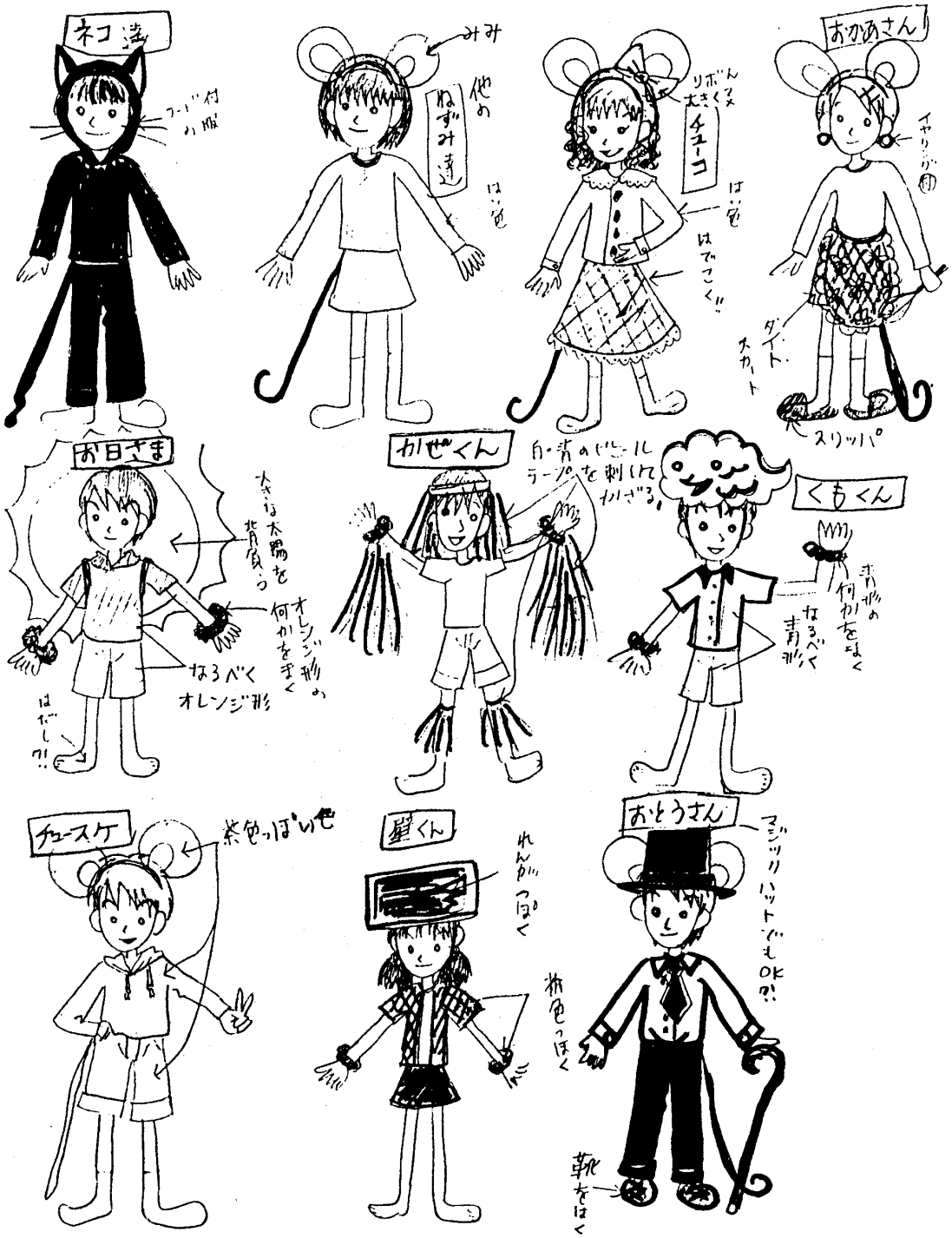
登場人物の衣装はそれぞれの役柄に特徴を持たせ、イメージを豊かにさせるものが理想的である。例えば次のような衣装も手作りの衣装として使用できるが、それぞれ幼児が楽しんで出演できるように工夫をして決定するとよい。

［紙芝居の場面］




(7) 雲がお日様を隠す
(8) 雲に会いに行く
風が雲を吹き飛ばす
(10) 風に会う
(11) 壁に会う
(12) ちゅうすけ君が壁をかじる


(13)　お父さんとちゅうすけ君
(14)　鼠の結婚式
&ENDB


ネコ達
フード付小服
みみ
他め
ねずみ達
はだ色
リボン
大きく
チユーコ
はだ色
はでっこく!!
おかあさん
イヤリング用
ダイト
スカート
スリッパ
お日さま
大きな太陽を背負う
オレンジ形の何かをまく
なるべくオレンジ形
はだし!!
かぜくん
白・青のビニールテープを刺してかざる
くもくん
青形の何かをまく
なるべく青形
チュースケ
茶色っぽいぜ
星くん
れんがっぽく
茶色っぽく
おとうさん
マジックハットでもOK!!
靴をはく

（2）保育科学生を通して

（a）オペレッタについてのアンケート（1999年、6月実施）の結果（アンケート用紙は末尾に記す）

1［あなたはオペレッタを知っていますか。］に対する回答は、

1年生は　知っている　(5.8%)
　　知らない　(94.2%)
2年生は　知っている　(17.5%)
　　知らない　(82.5%)

オペレッタを知っている学生は、一年生5.8%、二年生17.5%という結果で養成者の予想よりかなり低い人数であった。この中でも具体的に理解している学生は数えるほどしかないと思われる。今回の対象学生の高校生活においてオペレッタに体験が少なかったことを表している。

2［知っているほうに丸を付けた人は、どの様なオペレッタをしましたか。］に対する回答は、（発表したもの、見学したものも含むと思われる。）

1年生……「不思議の国のアリス」「眠りの森の美女」「フィガロの結婚」「かさじぞう」「機関車トーマス」「ありとキリギリス」「オズの魔法使い」「パンダパン」「鶴の恩返し」「十二支と猫」「さるカニ合戦」

2年生……「象の卵の卵焼き」「親指姫」「はらぺこライオン」「山の音楽家」「シンデレラ」「白雪姫」「金のガチョウ」「ピノキオ」「孫悟空」「王様の耳はロバの耳」「小人のくつや」「こぶとりじいさん」「浦島太郎」「みにくいアヒルの子」「雪の女王」「火の国」「夜だけ魔法使い」「グリーンマントのピーマンマン」「友達ほしいなオオカミ君」

これらの回答からオペレッタの経験が限られているということが理解できる。従って、2年間の中で効果的な講義や演習を与える必要がある。

3［それらのオペレッタはいつ、どこでしましたか。］（2年生ではいつ、どこでを分けて質問している。）に対する回答は、

1年生……幼稚園、小学校、小学校の学芸会を見にいった、高校の音楽の授業で

2年生……保育園、幼稚園、小学校の学芸会で、1年の実習でやった　1年の講義の時ビデオで見た

4［オペレッタを表現するとき、どの様なことを感じましたか。］（2年生では質問5）

1年生……殆どの学生が無回答であった。

2年生……ここではオペレッタを知っている学生が実際に表現した時を回想し、5段階＋0の難易度での回答が得たかったのである。一応回答は得たのであるが、「よく分からない」と答える学生が殆どであった。

5［オペレッタを表現してみて、あなたは幼児にオペレッタを指導する時に何を大切にしたいと思いますか。］（2年生では質問6）に対する回答は、

1年生……
・楽しめるように指導する。
・幼児の意欲、表現力を大切にする。
・互いに協力することを教える。
（殆ど無回答）

2年生……
・リズムに合わせて子供がたのしむこと
・初めにマイナスのイメージを与えないように心掛けたい。
・一人一人が楽しんでやれるようにする。
・子供にやらせるのではなく子供が自発的にやっているという風に伝えたい
・子供を主体としたオペレッタ。
・上手に見せるのではなく本来の子供の姿を大切にしたい。
・幼児らしさを引き出せるように、又遊びのなかにオペレッタを取り入れ、興味を持てるようにしたいと思う。

・お客様に聞こえるような大きな声で言えるように。
・初めにイメージを膨らます。
・明るく楽しく覚えられるように雰囲気を作る。
・少しでも出来たらいっぱい褒めてあげる。
・歌うにしても踊るにしても精一杯やってほしい。
・上手じゃなくてもいいから、頑張っている姿を出せたらいい。
・皆でやることの楽しさを味わう。

以上の記述から子供たちにもオペレッタは楽しいものだということを味合わせたいということを感じたようである。

7 ［むかしばなし「ねずみのよめいり」を知っていますか。］（この質問はオペレッタを演ずる2年生の為に用意したものである。）に対する回答は、

「良く知っている」と「覚えている」を合わせた人数が71%,「知らない」が29%であったので、短い期間で学生がこのオペレッタを理解するのには比較的よい作品であった。身近な題材を用いることが学生の意欲をもたせるためには重要である。

（b）オペレッタ実演に向けての試み

2年生におけるオペレッタ実演の試みは、平成11年6月から7月、3回の講義期間中に行った。（実習期間を挟む。）

第1回　オペレッタについての説明（作成方法～導入～発表会に向けて）
：
紙芝居（「ねずみのよめいり」を通して物語のあらすじを理解する。）
：
シナリオ配布（物語を1クラス4つのグループに分けてそれぞれ役割を決める）

第2回　紙芝居（配ったシナリオと照らし合わせながら、曲を皆で歌う。）
：
練習（各グループに分かれ、歌う練習、振り付けを決める。）

第3回　練習（20分）
：
発表（ビデオ撮り）

以上のような内容でオペレッタの実演までを行ったのであるが、学生の練習時間が少なく、予想はできていたが、クラスによっては物足りない結果になってしまった。歌うこと振り付けには時間の余裕が欲しい。可能であれば、衣装、舞台の設定なども考えて行きたい。しかし、学生のオペレッタをやろうとする積極的な意欲が感じられたことは収穫であった。

（c）オペレッタ「ねずみのよめいり」（メモ及び反省）からの結果（オペレッタ作成中）

1 ［このオペレッタを表現しているとき、どの様なことを感じましたか。5段階の難易度で当てはまると思う番号に丸を付けて下さい。］に対する回答は、

（%）

	＋2	＋1	0	－1	－2
＊幼児への指導が難しい	55.7	27.9	12.9	2.9	0.7
＊言葉のやり取りが難しい	20.7	34.3	39.3	5.0	0.7
＊台詞が難しい	2.9	22.1	60.7	11.4	2.9
＊歌ったり物語の役を演ずることが難しい	17.9	35.7	28.6	13.6	4.3
＊ピアノ演奏が難しい	24.3	29.3	33.6	09.3	3.6
＊大道具小道具等揃えることが大変だ	29.3	32.9	33.6	02.1	2.1
＊その他					

・子供がやりたい、面白い、もっとこうしようという気持ちを引き出すことがオペレッタを教えていく上で難しいと思った。

オペレッタ作成中より幼児への指導が難しいと感じていた学生が55.7%と最も高かった。続いて大道具小道具等揃えることが大変だが29.3%、さらにピアノ演奏が難しいが24.3%であった。

講義や演習の時に幼児への指導をどのようにしたらよいかを含めたり、大道具や小道具を楽しく作ったりする助言も大切である。作成中の学生の意識が明確になり今後の講義をするうえで参考になった。

1［上記の他に上手く出来ていると感ずる事などありましたら、具体的に書いて下さい。］に対する回答は、

＊オペレッタの作品その物に対する回答は、

・まず紙芝居で見せて、内容を教えるところが分かりやすくてよかった。
・紙芝居を手作りで行い、導入とすることは温もりが感じられて良いと思う。
・ピアノを弾くことによって雰囲気がよく出ていた。
・猫のテーマがいかにも「悪者猫」という感じで雰囲気が良く出ていた。
・鼠を意識した台詞や歌、ハッピバースデーちゅうユーが面白かった。
・チュ　チュチュ　チュ　チュと言うところが子供が気に入って歌いそうだ。
・同じ曲を歌詞だけを変えて使い回すと覚えやすい。
・歌と台詞のバランス、リズム等が自分で考えるのは難しいと思った。
・歌詞やリズムがとても可愛らしくて親しみやすかった。
・ストーリーが面白くユーモアがあり、可愛らしさも伴ってやりたい意欲が沸く。
・台本が細かく書いてあるので分かりやすかった。
・子供に指導する時は準備をして教える人がよく理解をしている必要がある。
・台詞とピアノのタイミングがあっていた。
・色々な登場人物が出てくることにより、幼児全員が参加する事ができる。
・登場人物を場面ごとに変えて、たくさんの人が主役を体験できるのは良いと思った。
・お父さんとお母さんのやり取り等会話の部分がなかなか上手く出来ていた。

このような感想から学生に与える作品として身近な題材で親しみやすい歌詞やリズムを与えることが効果あることが理解できた。

＊発表した時に関する回答は、

・台詞を言っていて楽しかったのでもっとやりたかった。
・楽しい気分で参加したのでチューチューネズミになりきれた。
・恥ずかしさがあり、もっと役に入り込めたらいいと思いました。
・皆アドリブで上手く表現していて良かった。
・声を大きくゆっくりとはっきり台詞が言えて良かった。
・体を使って大きく表現すると分かりやすい。
・練習時間が足りなくて未完成で終わってしまって残念だった。
・振り付けを大袈裟にやって分かりやすく行くように出来た。
・歌いながら振り付けをして踊っていた所が良かったし、見ていて楽しかった。
・笑顔で楽しくやっている姿を見ると、楽しくなってきて良かった。
・歌が覚えやすく、もう少し本格的にやりたかった。
・振り付け、衣装も付ければもっと面白くなるだろう。
・振り付けや台詞の言い方によって面白くなる。
・子供にも出来る打楽器を取り入れたことが良いと思った。
・配役の人数決めが早くできた。
・大きい声だと他の人に感情が伝わり、空間が一つになる。

多くの学生がオペレッタを体験することによって言葉や音や身体で表現することを味わったようであった。台詞のおもしろさ、歌うことの楽しさ、身体で相手に伝える楽しさを体験したことによってさらにオペレッタをしたいという学生がいたことは収穫であった。また、他の学生の表現する場面を見学することによって「楽しむ」という体験ができたことも幼児教育者となる上で重要といえる。

（オペレッタ終了後）

1 ［オペレッタを表現し終えて、あなた自身の感想を５段階に別けて当てはまると思う番号に丸をつけて下さい］に対する回答は、

（%）

	yes				no
	＋2	＋1	0	－1	－2
＊オペレッタの作り方が理解できた	32.9	35.6	26.2	4.7	0.7
＊オペレッタを十分たのしむことが出来た	36.4	41,4	16.4	5.0	0.7
＊友達との触れ合いコミュニケーションがとれた	45.0	37.9	14.3	2.1	0.7
＊曲に併せて歌ったり踊ったりすることは楽しい	48.6	41.4	9.3	0.7	0
＊登場人物になり台詞を言ったり振りをするのは面白い	33.6	37.1	27.1	2.1	0
＊登場人物になり、上手く表現することが出来た	5.0	18.6	47.9	21.4	7.1
＊振り付けを皆で考え捜索することが面白い	26.4	39.3	32.1	1.4	0.7
＊他のオペレッタも色々やってみたい	35.7	32.9	27.9	2.1	1.4
＊オペレッタを創作の段階からやってみたい	16.4	25.7	43.6	10.0	4.3
＊打楽器を使用するともっと楽しい感じになる	58.6	35.7	.5.7	.0	0

今回の体験からオペレッタの作り方に対して68.5％の学生が理解できたことは大きな収穫であった。オペレッタを体験したことが少なかった学生がオペレッタは楽しい、友達とのコミュニケーションがとれたり、歌うことや表現することのおもしろさを味わうことができた。さらに、打楽器などを使用していろいろやってみたいという意欲を感じた学生がいたことは参考になった。

＊ その他何か良かったことが有りましたら書いて下さい。

・ 色々なグループの人達の発表が見れて、楽しかった。
・ 初めから皆振り付け付きでびっくりしました。
・ 友達が演ずる姿を見ることが出来、勉強になりました。
・ 一人一人の表現の仕方の違いが見れて面白かった。
・ 時間をかけてオペレッタが出来たら凄く良いものが出来ると思った。
・ 幼稚園で絶対やりたいと思った。
・ なりきる事は私はとても好きで、楽しく行えた。
・ ピアノの練習をもう少しやっておけば良かった。
・ これから先オペレッタをやるときは衣装や振り付け、音楽など工夫して行いたい。
・ 曲を合わせると雰囲気が出て面白かった。
・ 皆で用意して作るのは面白い。
・ 保育者が子供に演じさせるのではなく、子供と一緒に作ろうと思った。
・ 子供に指導する時も先ず教師が役になりきって話す姿を見せるのが大切だ。
・ 一人一人に役があり、皆が参加できたことが良かった。
・ 風や雲などが登場するとき、打楽器を用いて表現したところが良かった。
・ こんな感じでオペレッタを作っていくんだなあと勉強になった。
・ 先生の表現が楽しくて、見習いたいと思った。
・ いつもと違う友達と組めて良かった。この人にはこんな才能が有るのかと分かった。
・ 一つのお話をより簡単に分かりやすく要点をまとめて表現すると言う事が分かった。
・ 小道具が一つ有るだけで随分違って見える。
・ 一つ一つの役になりきり、声のトーンや口調を変えたり言葉の言い方を考えたい。

短大でオペレッタを体験したことにより、表現することと人間関係や言葉と音との結び付きを理解した学生もみられた。興味をもった学生が多くみられ曲の選曲や演出の仕方をどのようにするかも今後の課題である。

2 ［オペレッタを指導する時、あなたは何を大切にして指導したら良いか知っていますか。］に対する回答は、

・ 子供が楽しんでできるように指導したい。 60.0%

・ 子供のやろうとする意欲、発達に応じて 30.7%

・ 知りません、良く分からない 9.3%

学生の意識の中で子供がたのしんでできるように指導したいといった回答は高く評価される。歌わせることや動かせることにとらわれた指導でなく「楽しむ」といった表現の在り方をとらえている学生が多いことは将来保育者になった時に大いにいかされる。また、子供がオペレッタをやろうという「意欲」を大切にしていることも注目をしたいものである。技術にとらわれる保育の方法を重視するのでなく表現の「ねらい」にある心情・意欲・態度をとらえた保育を大切にすることができる。

3 ［幼稚園教育要領「表現」のねらいを満たすと思われるオペレッタの指導方法を以下に示してありますが、あなたはどの様に扱いますか。5段階で答えて下さい。］に対しての回答は、（1年生ではアンケートの質問6になる）

1＊ 絵本を読み聞かせ、物語のイメージを豊かにする

2＊ 物語を話して聞かせ、イメージを豊かにする

3＊ 紙芝居を作ってみせる

4＊ 歌や台詞は何回も繰り返して覚えさせる

5＊ 印象に残った場面を絵に書かせ皆で意見を言い合う

6＊ 自由時間にピアノで弾き歌い興味を持たせる

7＊ 曲を歌う時打楽器を持たせて皆で楽しさを味わう

8＊ 登場人物の役は早く決め、台詞を覚えさせる

9＊ 登場人物のそれぞれの気持ちを皆で言い合う

10＊ 振り付けは予め教師が決めて早く覚えさせたい

11＊ 幼児の自ら参加する気持ちを大切にし振り付けにしたい

12＊ 皆で登場人物の台詞を言い合ったり歌いあったりする

2年生 (%)

	＋2	＋1	0	－1	－2
1	63.0	25.2	8.9	3.0	0
2	63.3	28.8	7.2	0.7	0
3	41.8	34.3	20.1	3.0	0.7
4	15.1	32.4	33.1	17.3	2.2
5	20.9	32.4	35.3	7.2	4.3
6	61.5	33.3	4.4	0	0.7
7	59.6	28.7	9.6	1.5	0.7
8	6.6	23.4	41.6	20.4	8.0
9	19.3	40.0	29.3	10.0	1.4
10	5.8	12.3	38.4	26.1	17.4
11	85.4	12/4	2.2	0	0
12	44.8	38.8	15.7	0.7	0

1年生 (%)

	＋2	＋1	0	－1	－2
1	44.0	42.8	9.4	3.8	0
2	37.6	46.4	12.3	2.3	1.1
3	20.5	38.0	35.1	3.5	2.9
4	7.2	26.7	30.9	23.0	12.1
5	17.2	38.4	29.8	11.3	3.3
6	35.0	38.5	23.1	2.1	1.3
7	66.2	26.9	6.9	0	0
8	1.1	19.2	40.6	20.9	18.1
9	15.8	39.8	32.1	9.4	2.9
10	2.6	10.4	26.6	37.0	23.4
11	62.0	32.2	5.3	0.6	0
12	32.4	42.9	24.1	0.6	0

2年生は、第1位に幼児自ら参加する気持ちを大切にし、第2位には、物語を話して聞かせ、イメージを豊かにする。第3位に、絵本を読み聞かせ、物語のイメージを豊かにする。そして、自由時間にピアノで弾き歌い興味を持たせる。曲を歌う時打楽器を持たせて皆で楽しさを味う。といったものであった。

1年生は、第1位に曲を歌う時打楽器を持たせて皆で楽しさを味わう。第2位は、幼児の自ら参加する。第3位には、絵本を読み聞かせ、物語のイメージを豊かにする。

2年生は、子供の自発性を大切にしたり、イメージを豊かにする、歌いやすい雰囲気を作ったり、楽しくオペレッタを身につけることを大切にしたいという意識をもっていた。1年生は、技術でもって身につけること、さらに子供自らがということを大切にしている。そしてイメージを豊かにすることも方法として意識している。

学生自身のオペレッタに対する意識の変容

オペレッタを体験していなかった学生がオペレッタを理解し、もっとしたいと意欲をもつ事ができ、表現をする時に楽しむことの大切さを身につけたことは講義や演習をする上で参考になった。

学生にオペレッタを指導する時

オペレッタを知っている学生は、1年生5.7%，2年生17.5%という結果で、養成者の予想よりかなり低い人数であった。この中でも具体的に理解している学生は数える程しかいないと思われる。

講義回数3回の中で学生全員にオペレッタを理解させ、その面白さを伝えるためには、導入の内容が重要ではないかと思われた。導入で学生にオペレッタを演じてみることへの興味を持たせ、学生のやってみようという参加の気持ちを引き出させることが出来るよう持っていきたいと思った。（今回は導入では養成者が紙芝居を用意した訳であるが、学生達で紙芝居を作成する時間の余裕が欲しかった。）

学生に紙芝居を見せつつ、養成者は登場人物の黒猫になってみて踊って歌う。ここで学生はオペレッタを演ずることの理解を得られ、オペレッタへの興味を持った様子であった。

発表はクラスごとで行ったので計4回であるが、各クラスでの結果には大きな違いが出た。

第1回目のクラスでは養成者は出演者には何も言わずオペレッタの成り行きを見守るだけの立場で見ていた。学生は積極的に参加する意思のある者と、何となく恥ずかしそうに演じている学生に別れ、時間切れで途中で終了することとなった。

第2回目のクラス。打楽器を使用したほうが良いかと言う学生の質問があったので、使用したほうが音が楽しくなると伝えた。何となく恥ずかしそうに演じている学生には養成者は舞台に出ていって大袈裟な振り付けでやってみせたりした。その時を切っ掛けとして学生は積極的に演ずるようになった。このクラスでの発表はまずまず成功した。

第3回目のクラス。このクラスは殆どの学生から活気が感じられ、発表では登場人物の言葉掛けから振り付け、歌など全員で積極的に参加でき、納得の行くものとなった。このクラスは打楽器を登場人物に合わせて効果的に使用していた。

第4回目のクラスでは養成者も学生と共にオペレッタの進行を楽しんで終了した。

表現の指導について

学生が保育者になって子供に指導しオペレッタを与える際、領域「表現」は感性と表現に関することを理解して保育をしてほしいものである。オペレッタを通して音楽の知識や技術だけを身につけさせるのではない。豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにすることも忘れてはならないということを二年間の中で伝えたいものである。今回のオペレッタの体験から台詞や音楽、絵画、造形、身体を通して表現することを味わい指導の困難さと楽しさを気付いたようである。また、仲間と一緒に作品を作っていくことのおもしろさも体験し保育の中で協力の重要さを気付いた学生も多くみられた。様々な環境で子供たちも発達することを身をもって経験したことは将来オペレッタを指導する時に参考になったと思われる。表現の指導には、技術を持たなければ指導することはできないが、知識や技術だけを身に付けさせるのではない。

自分から動きたい、歌いたい、踊りたいといっ

たこと自分で工夫して演じたい、話したいといった自発性を大切にしたいものである。自分で工夫して仲間と楽しくオペレッタを経験したことが将来様々なできごとにであった時に新しい考えを見つけ出す力になる。オペレッタの体験を通して創造性豊かな生き方ができるような保育ができるために学生の指導に留意したいものである。

- 学生がイメージをもちやすい題材を選択し準備をする。
- 学生にとって身近な題材を準備する。
- 学生の能力にふさわしい題材を準備する。
- 学生同士の人間関係を重視しながら作品を作る。
- 十分に時間をかけ計画・実践・評価をする。
- 学生同士の評価を大切にする。
- 表現の「ねらい」「内容」にふさわしい題材とする。

反省と課題

今回は時間が限られていたために十分に実践ができなかった。また、学生の創造力に任せて短い講義時間内にどの様にオペレッタを演じるかに視点を置いていたのであるが、始めから学生の中に混じって共にオペレッタを完成させていったほうがより多くの充実感、達成感が得られたのではないかと反省している。学生の評価が意識調査が中心であったが話し合うことによって更にオペレッタの指導と作品作りから「表現」における「ねらい」「内容」について指導することの大切なことを深めていきたい。